

平成31年：年頭所感

全国酒販生活協同組合
会長 三橋 敏弘

新春を迎え、全国の組合員・役職員各位をはじめ、関係業界、団体各位のご多幸のご繁栄を心からお祈り申し上げるとともに、平素の温かいご協力に対し、衷心より感謝の意を表するものでございます。

日本列島には四季があり、自然に恵まれた環境である一方で、古来より、あらゆる自然災害が発生し、多大な被害を繰り返してきましたが、昨年も西日本豪雨、台風21号、そして北海道での大地震などの大規模災害が発生し、居住していた住宅が損壊するなどの被害が相次ぎました。近年、「今までに経験のない災害」が、従来では全く想定ができない場所で発生しています。罹災に遭われた方々には謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

一方、生協事業に関連のある保険業界は、保険自由化以後二十年が経過し、生損保の相次ぐ経営破たんや経営危機、損保業界における二度にわたる大型再編など、実に様々な出来事がありました。自由化が進み経営の自由度が高まったのは確かですが、商品やチャネルの多様化など厳しい経営環境の中で、何とかして経営の安定を図ろうと苦心した時代を経て、現在に至っています。本組合としても組合員のくらしに溶け込んだ共済の意義と役割を原点から見直した事業を展開し、職域社会になくってはならない組織でありたいと考えております。

本組合の共済事業は、私たちの生活を脅かす様々な危険に対して、組合員相互に助け合う保障事業であり、今日の社会環境では「相互扶助」を基本とする協同組合の果たす役割はますます大きくなっています。こうしたことから本年は、危機管理体制の適切な実施と内部統制・コンプライアンス体制の徹底を図りながら、組合員に対して組合事業を利用することの意義を働きかけ、理解していただきながら、組合事業への参画意識を高めていく必要があると考えております。

本年も、皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健康とご多幸を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。